

# 「イスラム教徒」は日本に入れてはいけない。 《これはアラーのためだ!》 と刺し殺す、テロリスト。

ロンドン中心部、週末の夜のにぎやかな繁華街はパニック状態となり、緊迫した雰囲気にも包まれた。

現場はテムズ川の南北を結ぶロンドン橋の周辺。

北側には金融街シティー、南側には飲食店街や食品市場。

橋の北側から来た白いワゴン車が時速約80キロの速さで歩道に乗り上げ、歩行者を次々とはねた。

「車が止まると、中から3人出てきた。

最初は救護しようとしているのかと思っただが、人を蹴ったり、なぐったりし始め、ナイフを取り出した」と目撃者は証言する。

3人は「これはアラーのためだ」と叫びながら付近の飲食店に押し入り飲食店で呆然とする酔客を男達は躊躇なくナイフで次々と刺し殺した、という。

## ロンドン襲撃犯 2人の身元公表 1人はパキスタン出身

警察の声明によると、1人目はパキスタン生まれで英国籍を持つカラム・シャ



ロンドン警視庁が公開したカラム・シャザド・バット容疑者（左）とラチド・レドゥアン容疑者の写真

ザド・バット (Khuram Shazad Butt) 容疑者 (27)。警察と情報局保安部 (M15) が身元を把握していたが、今回の攻撃が計画されていたことを示唆する情報はなかったとしている。

バット容疑者は、地元テレビ局チャンネル4 (Channel 4) が昨年英国内の過激派をテーマに放送した、「隣のイスラム聖戦士」を意味する「ジハーディスト・ネクスト・ドア (The Jihadist Next Door)」というドキュメンタリー番組で取材を受けていたと、現地メディアは報じている。

もう1人はラチド・レドゥアン (Rachid Redouane) 容疑者 (30) で、「モロッコ人とリビア人を自称していた」とされる。ラチド・エルハダル (Rachid Elkhadar) という別名を使用し、年齢を25歳だと詐称していたこともあるという。

事件は、6月4日に12人が拘束されたものの、これまでに2人が釈放され、現在10人が拘束下にある。【翻訳編集】AFPBB News

## イギリスは「社会保障サービス先進国」

イギリスの「ゆりかごから墓場まで」はイギリス労働党の掲げた社会保障制度のスローガンである。

第二次世界大戦後の世界は日本を含めた各国の社会福祉政策の指針となった。

英国の社会福祉サービスは、国民全員が

無料で医療サービスを受けられる国民保健サービス (NHS) と国民全員が加入する国民保険 (NIS) を基幹とするのが特色である。

◆日本は永年イギリスをお手本として努力した結果、「国民皆保険」・「国民皆年金」を実現させ、いまや、世界に冠たる長寿国家になることができた。

## なぜ、イスラム教徒のパキスタン人やモロッコ、リビア人がイギリスにいるのか？

ここで、テロを起こしたパキスタン人について考えてみる。パキスタンは社会福祉政策が充実している国だろうか？ イギリスに移住していることを考えればパキスタンは社会福祉サービスの充実していない国に違いない。

「イスラム過激主義」や「過激思想」の取り締まり強化などが今後のイギリスの課題だが、それだけで十分とは言えない。

禁じ手だが、アメリカのトランプ大統領の言うように「イスラム教徒を排斥する」ほうが、より効果的だろう。

テロリストは口々に「これはアラーのためだ」と言って無差別に殺人を楽しんでいるのだ。

テロリストは「アラーの教え」に従って、無差別殺人をすれば死後の世界で享樂三

味・贅沢三昧ができる、と洗脳されているのだから喜んでテロにのめりこんでいく。

狂人と狂信者には理屈を並べても理解してもらえない。

イスラム教徒がなぜ怖いのか、といえば全く基本的な価値観が違うからだ。

## 狙われた スウェーデンの白い肉 移民による強姦の増加 「北欧女性は淫売の娼婦」という イスラム教徒

世界を見回しても、スウェーデンは南アフリカに次いで二番目に強姦犠牲者が多い国となった、のだという。

スウェーデンでは10万人当たり53.2人が強姦されていて、アメリカの被害者と比べれば6倍も高いことになる。統計によれば、成人女性の四人に一人がレイプされている可能性があるらしい。

強姦魔には『イスラム教徒移民』が多く、『強姦件数の77パーセントを占める』という。

イスラム教徒移民の増加と強姦件数の



増加が比例しているのだ。

特に有色人移民が集まる都市部で多発しており、ストックホルムでは平均1日で5人が強姦されている。

この首都では人口の3分1くらいがムスリム系住民だという。

なぜ、スウェーデンに移民・難民が多いのか？

北欧社会は《異文化や異民族に寛容》なのである。

スウェーデンは「異文化や異民族に寛容」であることを自慢する癖があるらしい。そのせいで西欧社会では、国家的自殺に歯止めが利かない。

特に北欧社会は国民の文化水準や平均所得が高いので、第三世界の移民や難民にとっては、ヨダレが出るほど魅力的である。しかも、社会主義思想に汚染されたスカンジナビア人は、その倫理的優越性を自慢したがるので、異人種を排斥することに躊躇（ためら）いをもつ。

なるほど、それなら自業自得というべきだろう。

◆高福祉社会は各国民が同じ人種的・文化的背景をもつから可能なのであって、異質な貧乏異教徒がやってきても、同



化できるものではない。

それに移住してきても、文化・習慣はおろか、言葉が全く違うのだから、仕事を見つけることすらできない。

したがって、アフリカや中東アジアからイスラム教徒が飛来してくれば、隔離された生活を強いられるのは目に見えている。

スウェーデンでも評判が悪いマルメという第3の都市に多数の有色難民・移民が群がってしまい、人口の3分1くらいが外国人になってしまった、という。

ランド大学 (Lund University) のベニー・カールソン教授は、就職できないソマリア人が、マルメに出来た“ブラック・ホール”に吸い込まれるようにやって来ると指摘する。

福祉の充実を誇るスウェーデンなのに「女性が強姦されること」は問題ではない

ようなのだ。肌の色の白い魅力的な北欧女性は、第三世界から来た有色人のイスラム教徒によって、性的な標的にされる。

中東アジアでも強姦は珍しくないが、被害者家族からの復讐が怖い。娘を犯された父や兄が、強姦魔に制裁を加える場合があり、殺人にまで発展することもある。

イスラム教徒は、「北欧だと安心して強姦が楽しめる」。「逮捕されたって、たいした罪でもないから、刑期が短いし、快適な刑務所だから、イラクやパレスチナ、アフガニスタンといった戦闘地域とは雲泥の差である。テレビを見たり、ゲームまで許されている。清潔な部屋と健康管理、読書や礼拝までできるのだ。ジムも完備されていたりして、故郷では味わえない文化的生活を刑務所で送れる。サマーキャンプ場みたいなもの。



刑務所でさえこんなにも楽園なのだから、シャバではやりたい放題である。街中では美しい「白い肉（北方種族の女性）」が呑気に歩いている。アフリカなどではとても望めない白人女を、無料でセックスできるのだ。我慢するのは馬鹿らしい。

## 酷い強姦が多発する

無責任なスウェーデン政治家の罪は、無邪気な一般人の体で償われる。スウェーデン人少女のマリン (Malin) とアマンダ (Amanda) は大晦日の夜にパーティーへ向かう途中、4人のソマリア人移民が現れ、彼女らに襲いかかって強姦したうえ、殴りつけて半殺しの目に遭わせたという。その強姦犯4名は逮捕されたが、大手のマスコミは彼らの素性を曖昧にし、スウェーデンの者2名、フィンランド出身者1名、ソマリア出身者1名という報道であった。

犯罪防止評議会 (Bra) の調査では、強姦事件容疑者の大多数が、アルジェリア、リビア、モロッコ、チュニジア出身者で占められている。これは、北欧諸国全体に当てはまることで、ノルウェーで起きた強姦事件の容疑者は、3人中2名がムスリム系の非西欧出身移民であったという。

◆かつて今も、日本での「在日朝鮮人による強姦事件」は犯人の素性、国籍と実名を隠して報道していることと同じである。

## なぜイスラム教徒の男性は西欧の女性を強姦するのか？

その答えは「女性に対する考え方が全く違う」からだ。

たとえば、◆イスラム教徒の家庭では夫・父親が支配者で、男女平等という思想はない。娘の結婚さえ親が小さい頃から勝手に決めてしまうのだ。そうした家庭の娘は気軽にボーイ・フレンドをつくって交際できない。

◆男女平等思想が浸透している北欧では、年頃の娘がボーイ・フレンドをつくるのに親の許可など求めない。

イスラム教徒からすれば、北欧女性は性倫理をもたない淫売で、しかも人前でビキニ姿を晒す「ふしだらな女」である。



ムスリム強姦犯の逮捕例

だからムスリム少年らは、スカーフを頭にかぶせず街を歩く女性を娼婦（ばいた）とみなす。彼らからすると、スウェーデン女性は「強姦してください」と公言しているようなものである。

2000年2月、スウェーデンのリッセンで起きた『**集団強姦事件**』では、加害者に人種的憎悪があったことが暴露されてしまった。

ムスリム系移民の4名、ハミッド、アリ、アブドゥラ、リチャードは、「輪姦した動機」を語り、スウェーデン世論は激昂したのである。犯人の一人ハミッドが述べる**ところによれば、スウェーデン人の女を強姦することは、アラブ人女を犯すことほど悪いことではない。どうせスウェーデン人娘は強姦される前から他の男とセックスをしているのだから、レイプされたってどうってことないだろう。しかし、アラブ人娘だと家族の問題も生じてくる。強姦は彼女にとって恥となってしまう。イスラム教徒一般について言えることだが、その娘は結婚まで処女を守らねばならな**

**い。そしてハミッドは、「スウェーデンの淫売女、つまりスウェーデン娘どもなんか“ちょろい”ものさ」と笑いながら語ったのだ。**

十代の移民青年はたいていスウェーデン人のガール・フレンドをもっているが、結婚となれば、一度も男と交際したことがない同じ文化の娘（つまり、貞操観念のあるイスラム教徒の女性）を選ぶ。ハミッドからすれば、結婚前にスウェーデン人の淫売を犯しただけで、アラブ系少女を強姦したわけでもないから罪悪感をもたない、ということだ。

残酷な強姦事件が頻発しているのに、北欧のメディアは有色移民やイスラム教徒による犯罪だと、事件の核心をぼかした報道を行う傾向が強い。犯罪自体を取り上げるのも腰が重いし、容疑者が有色人種だと、その素性や人種・民族的背景を曖昧にして伝えるのだ。

しかし、こうした偏向報道に対して憤る北欧人は結構いる。

ある強姦事件はスウェーデン人の注目



餌食となる女性

を集めた。

**28歳のソマリア人イブラヒム・アフメド・ダイール (Ibrahim Ahmed Dahir) は、残虐な強姦事件を起こして、6年の実刑をくらった。**

2014年9月12日、このソマリア人はスウェーデン女性の自転車を盗んだ。自転車を取り戻そうと追いかける彼女を、その犯人はある中庭におびき寄せ、畏に嵌めたのである。

このソマリア人は彼女を蹴ったり、ガラス瓶で頭を殴りつけて、負傷した彼女を強姦したのである。その強姦たるや言葉に出来ぬほど荒々しいもので、性的暴行はもちろんのこと、抵抗する彼女の上着で首を絞め、息ができぬほど締め付けたという。砕けたガラス瓶の上に押さえつけられた彼女は、背後からも性的に暴行されたのである。つまり、この獣(ケダモノ)は彼女の肛門さえ犯したのだ。(こんなに詳しく事件内容を書きたくはないが、事実を明らかにしないと強姦の実態が理解されにくいので、敢えて書くことにする。)

あらゆる方法で強姦したダイールは、何も覚えていないとしらを切った。こんな強姦魔はたった6年の懲役刑と164,000クローネ(213万円)の罰金刑で済んだのである。ところが、このソマリア人は前科11犯で、2011年にも強姦未遂で2年半の実刑を受け、2013年の6月に出所したばかりであった。こうした悪質な犯罪

者はソマリアへ追放されず、依然としてスウェーデン人のままである。

移民による犯罪をもうひとつ紹介したい。これは残酷な強姦殺人である。

2010年9月26日、美しいスウェーデン人女性エリン・克蘭ツ (Elin Krantz / 27歳) は、ゴッテンブルクのナイト・クラブで遊んだ後、友人と一緒に帰宅の途にあった。午前4時くらいになっており、彼女らは電車で帰ろうとし、エリンの友人は途中の駅で降り、車内は彼女ひとりとなってしまった。

かつての安全なスウェーデンなら彼女の目的駅まで何も起こらない。ところが、その車両に黒人のエフレム・タデーレ・ヨハネス (Ephrem Tadale Yohannes) が乗車してきた。この黒人にとっては絶好の



エリン・克蘭ツ

カモが乗っていたのである。明け方近くの列車内で、金髪のスウェーデン女性が一人きりなのだ。

列車を降りるエリンをヨハネスは尾行し、タイミングを見計らい彼女を襲うと、近くの雑木林に引きずり込んだ。拉致されたエリンは思いっきり蹴り飛ばされ、ひどく殴られた。暴行による呼吸困難で、彼女の脳には大きなダメージが生じたばかりではなく、頭部、首、腕、脚にひどいアザができた。この卑劣漢の強姦は想像を絶するものであり、彼女の性器の膜は裂傷が激しく、強姦のすさまじさを物語っていたという。

列車内のCCTV(監視カメラ)により、事件後間もなく警察はヨハネスを逮捕できた。この野蛮人に殺されたエリンの遺体は、無惨にも林の中にある岩場に投げ

捨てられていたのだ。遺体遺棄現場で哀れな姿を曝すエリンの写真は世界中に拡散された。(筆者はもっているが、あまりにも酷いのでこの写真は掲載できません。)警察によるDNA検査により、ヨハネスの犯行は明らかとなり、自白を始めたヨハネスは、他にも強姦をやった男が二人いるとの供述をしたのである。この二人については詳しいことは分かっていない。

## 異質な外人を連れ込む輩

このヨハネスとは如何なる人物か。エチオピア生まれの強姦魔には、子供が二人いるらしい。スウェーデンに移住してくる前は、米国のヴァージニア州に住んでいた。しかし、アフリカ黒人であるために差別されたので、多文化主義を掲げるスウェーデンに移り住んだという。

どうもヨハネスは難民だったらしく、難民支援組織の手引きで米国に住むことが出来たのだが、アメリカ社会に馴染めなかった。そこで難民の身分を利用して、難民受け入れに積極的なスウェーデンに転がり込んできたらしい。

まことに腹立たしい話だが、北欧諸国はこうした犯罪被害ばかりでなく、社会福祉を移民・難民に食いつぶされている。高い税金を払った国民は、福祉詐欺や殺人・強姦・窃盗というプレゼントを貰うのだ。

こんな不逞外国人を国内に連れ込んだ



エフレム・タデル・ヨハネス



奴らは、犯罪被害とは無縁の生活を送っている。そもそも移民や難民の支援をしたり、移住の手引きをしている者は、普通の正常な精神を持つ国民ではない。

具体的に詳しく述べると長くなるから、ここでは省略するが、国家の防衛と国民の安寧を優先する者たちではない。

たとえば、移民政策に影響力を行使したデイヴッド・シュワルツ (David Scharz) は、ポーランド生まれのユダヤ人で、ホロコーストを生き延びて、戦後スウェーデンに移住してきた。そして、国内大手の新聞 (ユダヤ人所有)「Dagens Nyheter」で、移民政策の論陣を張ったのだ。

ユダヤ人は自分たちが異国で安心して暮らすために、同質社会を多文化社会に変質させて、ユダヤ人が目立たないようにしてしまう。しかも、現地固有の文化を破壊する一方で、自分たちの民族と文化は絶対に守り抜こうとする。スウェーデン人に黒人やムスリムを受け入れ同化しろと説教するが、ユダヤ人は黒人なんかとは混血しない。言うまでもなく、イスラム



デイヴッド・シュワルツ

教徒はユダヤ人にとって永遠の敵だから、絶対に妥協はしないのだ。

その他の著名な移民問題言論人を見てみよう。インガ・ゴットファーフ (Inga Gottfarb) はユダヤ系で、ゲザ・ティンツ (Geza Thinsz) はハンガリーからの移民であるし、ルーカス・ウィニアキ (Lukas Winiarki) はポーランドからの移民である。こんな外人系評論家がスウェーデンの移民政策に関与しているのだ。昔から代々住むノルディク系スウェーデンはただ傍観するだけで、外国人反対を叫ばない。

移民や難民を受け入れようと画策する「リベラル」人権派は、なんとなく善良な人々に思えてしまう。しかし、彼らは一般国民にとって、【不倶戴天の敵】である。

平凡な日常生活を望む一般人にとって、治安維持はとても大切な政治課題である。しかし、同化できない異質な外国人を「善意」を錦の御旗に掲げて、どんどん輸入しようとする人権派は、その根底に国民国家の破壊願望をもつ。同質な社会で幸せに暮らす国民を許せない。現体制をぶっ



インガ・ゴットファーフ (左) と著書

つぶして彼らが妄想する理想郷を実現しようとする。移民・難民は彼らにとって、国境という壁を打ち砕くためのハンマーである。異民族から同胞女性を守ろうとする移民・難民排斥派は、いつも「極右」とか「ネオ・ナチ」のレッテルを貼られてしまう。

しかし、女性を犯罪から守ろうと声を上げる者がなぜ批判されるのか。仮に100名の強姦被害者が発生したとする。移民・難民を排除しておくか、移住禁止にしておけば、70名くらいの被害者を未然に防げたかも知れない。性犯罪をゼロには出来ないが、少なくすることは出来るのだ。強姦されなかった70名の女性は、左翼と同じく外人排斥者を「極右」と非難していたかも知れない。しかし、未然に防いだことで多くの女性が苦悩せずすむと考えれば、「極右」のレッテル貼りも我慢できよう。人権派は強姦被害者の涙を何とと思っているのか。妻や娘、妹、姉をもつ男は覚悟を決めるべきだ。どのような批判・非難を受けようが愛する者を守るのが男の義務ではないのか。



## 自民党の不思議なところは、移民受け入れに積極的なところだ。

なにか「移民を入れないと人口は減り、GDPが落ち、国は衰退する」と安倍晋三総理にデタラメを吹き込んだ奴がいそぐのだ。積極的な移民受け入れは正しいのか？

移民大国のアメリカをお手本にしているのだろうが、日本にはアメリカのように広い国土があるわけではない。

しかし一方で、「社会保障」はアメリカより充実し、「国民健康保険」を使えば医療費は30%支払うだけで日本国民と同等に医療がうけられる。

地方自治体では窓口に「中国人」や「韓国人」を雇っていて「生活保護」が申請しやすいようにサービスをする。

## 実に不可思議である。

.....

ちょっと待て！

日本は日本人のものであり、朝鮮半島人や中国人のものではない。

役所も、保守党の国会議員も、野党の国会議員も国民の税金を不当に移民たちへ支給しようとするところが何とも解せない。

特区を使って獣医学部を作るのは良い。仲の良い友人の学園だって問題はない。不正なことはしていないのだから、ゴルフを一緒にしても目くじらを立てることはなかろう。

ただ、特区を使って移民促進だけはやめてほしい。なぜ自国民の就業を阻害しようとするのか。安倍晋三という政治家は日本の政治家であってインドの政治家でも韓国の政治家でも中国の政治家でもない。

当然、フィリピン、アメリカ、ヨーロッパの政治家、ロシアの政治家でもないのだから日本人のことだけを考えて政治をしてほしい。

## 4～5カ月前にパキスタン人4万人がサウジアラビアから強制送還された、という。

多くのパキスタン人が、麻薬取引、窃盗、偽造、暴行などで拘束され、ほかにも滞在及び就労許可期限切れで強制送還された、という。

サウジアラビアは自国の王政の安定と主権を脅かすものとしてテロリストを取り除いています。

2012年から2015年の間に24万3千人のパキスタン人が強制送還されています。

メディアはトランプ大統領のことしかいいませんが、『イスラムテロの怖さ』を知るイスラムの国々が、自国を守るために、外国人規制をしているのです。

そのパキスタンはアフガニスタン人のテロを警戒して既に3百万人のアフガニスタン人に退去勧告を出しています。

## パキスタン、アフガニスタン、バングラデシュ人やネパール人が日本を目指して接近中!!

そこで心配になるのは戸締りが緩い我が国日本です。

日本は戸締りが出来ていないので狙われる対象です。

サウジアラビアを追い出されたアフガニスタン人やパキスタン人は日本に来てしまうかもしれません。

いや、現在でも、ネパール人やバングラデシュ人は日本に大勢来ています。

「技能実習生」以外でも、「難民申請」で就労が認められるネパール人やバングラデシュ人が押し寄せてきていると、います。

彼らの一部は、カタールの2022年『サッカーワールドカップ』のスタジアム建設を避けて日本に流れてきている、と言われています。

なぜなら、このスタジアム建設現場は劣悪で、今までに1200人以上の労働者が過酷な労働のために死亡しており、全工事完了までに約4000人が死亡すると言われているほどだからです。

もちろんバングラデシュ人やネパール人も大量に死んでいます。

ネパール大使館側は、「ネパールの労働者らも毎年、200人ほど亡くなっている」

と明らかにしました。

カタールは労働者不足から、貧しい国カンボジアに10万人の労働者を要請したところ、3万3千人で折り合いが付き、カンボジア人3万3千人がカタールの死の現場で働くことになっています。

◆カンボジア人はほとんどが仏教徒ですから、イスラムテロの心配はありません。

## 荒廃した リオ・デジャネイロ オリンピック施設

『グローバリスト』たちは、通常ビジネスだけでなく、世界中でスポーツなどのイベントを定期的開催させ、  
一番劣悪な条件で働く労働者を



連れてきて働かせて儲けます。

オリンピックやワールドカップは、彼らに利用されていると私は思っていて、最近嫌いです。

イタリア：トリノ五輪の選手村を不法入国後に不法占拠しているアフリカ偽装難民が暴動！



◆EU艦隊が地中海で拾ってきてイタリアに連れてきた者たちで、町はずれにある以前のオリンピック選手村を不法占拠し、少なくとも1500人が住み着

あれから半年。リオデジャネイロ・オリンピック会場の荒廃っぷりが凄い。

いています。

2016年3月の記事に出ていたトリノ五輪選手村。すでに難民が不法占拠中。

## イタリアのトリノでアフリカ不法移民たちが暴動を起こしました。

The Libero Quotidiano 新聞は、アフリカ人暴徒の何人かの言葉としてこう伝えています。

彼らは自分たちの状況に対する復讐のために暴動を起し、アラブは更に導いてくれると言っているそうです。水曜日の夜、彼らが不法占拠する区域の外で、3つの爆発物が爆発したということです。The Libero Quotidiano紙は手紙爆弾だと言っていますが、それは可能性としては低く、警察の捜査結果を待たなくてはなりません。

また誰が爆発させたかはわかっていませんが、The Libero Quotidiano紙は、この爆発が暴動の主な動機だと言っているアフリカ人たちが何人かいると述べています。

中東では、メイドも酷い目に遭っている



暴動アフリカ偽装難民が宿泊施設に押し戻されるところ

のは以前からよく知られたことでしたが、それ以外に「財政的問題」「テロ不安」などから外国人を制限する動きが出てきています。

2016年1月にはサウジアラビアに派遣されていたフィリピン人メイドを種々の事情で縮小するため、そのはけ口を日本に求めてきていたことがわかっています。(中東情勢悪化で、帰国したフィリピン人海外就労者の日本派遣を大統領府が検討)

以前から外国人メイドを入れたがっていた(?)日本政府は、その後、特区を活用してフィリピン人メイドを入国させることを決めてしまいました。

(家事代行特区 始動へ 外国人活用、ダスキンなど3社認定 2016/7/26 日本経済新聞)

アメリカが、インド人やメキシコ人はもういらぬと言っている。インド人に対して「1年で永住権」が取れると呼び込んでいるのが安倍晋三総理です。

今やっていることは、外国からいらぬと言われた外国人を日本が嬉々として迎えているという構図です。

どの国も、自分の国を守るために外国人を追い出しているのにおかしいですね。

グローバリズムは是正へと向かっています。

にも関わらず、我が国がグローバル化路線を突き進めば、何時までも日本国民は豊かになれず、少子高齢化は改

善されず人口減少で国力の低下は免れません。いまこそ外国移民を日本に入れない工夫が必要なのです。

安倍晋三政権は早急に外国移民受入政策を転換しなければなりません。

自然災害が多く、山林が多いため住めるところが2～3割しかない国土で、食料もエネルギーも自給できず、国内で貧困層を拡大させている現状を放置して一体何を狙おうとするのでしょうか？

海に囲まれ独自の文化や民族を形成して

均一性の高い、日本人が暮らしやすい日本。

人材派遣業というピンハネ産業が乱立し、儲かるということは国民が安定した生活をしているとは言えません。

ピンハネ業は経営者にも、勤労者にも国家にも後世にも何も残しません。

技術力向上にも生産性向上にもマイナスです。

不健全なサイクルに乗らずオーソドックスな日本独自の成長戦略を模索するチャンスを見逃さないよう、外国労働者は排斥すべきです。

## 【追伸】 3人目のテロ実行犯

ロンドンのサディク・カーン市長の発言を曲解してトランプ大統領が批判している。

ロンドンのサディク・カーン市長はイスラム教徒であり、トランプ氏が昨年の大統領選でテロ対策のため主張した「イスラム教徒の入国禁止」を批判してきたことを根に持ったりベンジなのだろう。

しかし、トランプ大統領の言うようにイギリスのロンドンのテムズ川に架かる橋付近でイスラム教の狂信者が《これはアラーのためだ!》と言いながら次々に殺傷テロをやったことに間違いはない。

トランプ大統領の行為は子供じみていて大人気ないが、イギリスがイスラム教

徒を国内に入れなかったらテロは起きなかったろう。

ところで、3人目のテロ実行犯の名前が分かった。モロッコ系イタリア人でユセフ・ザコバである。

